

令和5年度 自己評価シート

1. 学校の教育目標

本校の教育理念に基づき、きめ細かい指導のもと社会人としての資質の向上と幅広く教養と常識を身に付けたバランス感覚のある人材輩出を目標とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1)教育(教職員として)の質の向上
- (2)人間力の育成・演習・実践の強化
- (3)地域の一員・住民であることを意識し目的に合わせた地域力の活用

3. 自己評価項目の達成及び取組状況

4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

令和5年度

(1) 教育理念・教育目標

	評価項目	自己評価
1	学校の教育理念・目的・育成人材像は明文化されているか。	4
2	学生・教職員に対して、学校の教育理念等の周知徹底が図られているか。	4
3	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4
4	学校における職業教育の特色は明確になっているか。	4
5	学外(保護者含)に対して、学校の教育理念等が公開されているか。	4
	取組と課題 今後の改善方策	令和5年度は保護者出席制限無しで入学式と同時に保護者会を行い、当校の教育理念・教育目標等及び各学科の勉強内容等を直接保護者の方に伝えることができた。また、昨年同様学生には学生ハンドブックにより詳しく伝えるとともに、学校のルールも理解させており、ホームページや学校案内を通じて教育理念、教育目標等は公開している。

(2) 学校運営

	評価項目	自己評価
1	学校の目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4
4	理事会が定期的で開催されているか。	4
5	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的で開催されているか。	4
6	組織の構成員のそれぞれの職務分掌が文書化されているか。	4
7	人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4
8	賃金制度・昇進・昇格制度は文書化されているか。	4
9	個人情報保護規程が文書化されているか。	4
10	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4
11	教職員の健康診断がされているか。	4
12	教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	4
13	職業実践専門課程専攻分野における企業・団体等と連携した事業及び教員の研修はできているか	4
14	情報システム化等により業務の効率化が図られているか	4
	取組と課題 今後の改善方策	就業規則を改正し、より教職員の業務に即した就業体制を構築した。また、職員間の連絡等にSNSを利用したソフトを活用し、職員間の連絡事項の効率化が図られた。

(3) 教育活動

	評価項目	自己評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確になされているか。	4
3	カリキュラムは体系的に編成されているか。	4
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
5	業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4
6	産学連携によるインターンシップが体系的に位置づけられているか。	4
7	学生・保護者等によるアンケートにより授業評価の実施・評価体制があるか。	4
8	職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4
10	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか。	3
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4
15	教育内容の改善を図るため教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか	4
取組と課題 今後の改善方策	令和5年度はコロナ禍も明け、対面での研修に参加することができた。教務関係・就職関係(外国人の就職)の研修及び、新しい学校像やメンタルヘルスの研修を受けた。業界等の研修はいまだ行えずにおり課題である。例年通り卒業生・保護者に関するアンケートは行っている。	

(4) 学修成果

	評価項目	自己評価
1	就職率の向上が図られているか。	4
2	資格取得率の向上・資格に関する目標が図られているか。	4
3	退学率の低減が図られているか。	4
4	卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか。	3
取組と課題 今後の改善方策	就職に関しては昨年度と同様99%の就職率であり、留学生も大手ホテルに就職できた。退学については精神的理由による退学軽減のため教員が岩手県産業保健総合支援センターにてメンタルヘルスの基本の講習を受講し、過去の退学に関する調査を行った。また、今年度開校30周年記念授業を行う予定である。	

(5) 学生支援

	評価項目	自己評価
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4
2	学校案内等には育成人材像が明示されているか。	4
3	学校案内等には学費・教材費等が明示されているか。	4
4	学校案内等には選抜方法が明示されているか。	4
5	学校説明会等による情報提供は行われているか。	4
6	入学予定者に対し学習指導・支援等が行われているか。	4
7	入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか。	4
8	学生相談に関する体制(面談)は整備されているか。	4
9	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4
10	課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4
11	学生の生活環境への支援は行われているか。	4
12	保護者・保証人と適切に連携しているか。	4
13	卒業生への支援体制はあるか。	3
14	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4
15	ハローワーク等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
16	退学率の低減・中途退学の原因・傾向等を把握しているか	3
取組と課題 今後の改善方策		学校入学予定者は引き続きオリエンテーション等を行って学校生活にスムーズに入れるように行っている。キャリア教育については当校日本語学科が水産工場にて働いている外国人に対して日本語教育をWEB夜間講座を行っている。人手不足を背景とした外国人に対するキャリア教育は今後もニーズは高いと思われる。

(6) 教育環境

	評価項目	自己評価
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか。	4
3	防災に対する体制は整備されているか。	4
4	学内の整理整頓清掃に関する定期的なチェックが行われているか	4
取組と課題 今後の改善方策		法令に従って必要な施設設備の点検・修理修繕等行っており、定期メンテナンスも実施している。また火災避難訓練や地震防災訓練などを通じて防災意識を高めている。また、毎日の清掃と教員による確認、定期的な大掃除も実施しており衛生環境も問題なく保たれている。

(7) 学生募集

	評価項目	自己評価
1	高等学校等に対する情報提供等の取組を行っているか。	4
2	学生募集活動は、適正に行われているか。	4
3	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。	4
取組と課題 今後の改善方策		高校内で実施されるガイダンス・説明会等も増加傾向にあり、伴って本校の情報提供の機会も増えてきている。また、学校情報だけでなく公務員の試験情報などの提供も行い、高校の先生方からは好評を得ている。同様に、高校生や説明会などに来校した方などに対しても、進路選択に不可欠である実績(就職状況や合格率等)の情報提供はもちろん、職種についての説明なども行い、将来の職種選択の一助となるような説明を心がけている。

(8) 財務

	評価項目	自己評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4
3	財務について会計監査が妥当に行われているか。	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか。	4
取組と課題 今後の改善方策	日本人学生は1学年が微増、2学年半減という厳しい状況にあったが、留学生の倍増で全体としては微増という結果であった。	

(9) 法令遵守

	評価項目	自己評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4
3	自己評価の実施と問題点の改善と行っているか。	4
4	自己評価結果を公開しているか。	4
取組と課題 今後の改善方策	昨年同様、自己評価の公開は継続して行われている。学校として適正な運営を常に心掛け、評価項目の適正維持を図っている。	

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	自己評価
1	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4
2	社会的活動(地域活動・ボランティア等)を評価しているか。	4
3	地域に対する公開講座等を積極的に実施しているか。	3
取組と課題 今後の改善方策	令和5年度も引き続きボランティアは学生に広く告知している。コロナが明け地域のお寺のお祭りが再開し、留学生がお祭りに参加した。お祭りに参加する地域住民も減っているそうなので、今後も留学生中心に地域貢献していきたい。	

(11) 国際交流

	評価項目	自己評価
1	受入れ・派遣、在籍管理等について適切な手続き等がとられているか。	4
2	留学生の学習・生活指導等について学内の適切な体制が整備されている	4
3	国際交流が行われているか	4
取組と課題 今後の改善方策	令和5年度はビジネス学科はもとより公務員学科においても日本人学生と留学生との交流を図った。特にビジネス学科では毎週交流授業があり、国際交流を図っている。留学生に対しては生活オリエンテーション、アルバイト把握、交通安全教室等を行っている。	

4. 本年度の総合的な自己評価結果と今後の課題

令和5年度は就職・公務員試験ともに好調であったが、今後は就職が留学生の増加により難しくなることが予想される。入学者に関しては日本人学生の減少・留学生の増加が予想され、それに対応した授業体系を今後確立する必要がある。また、職員に対しては効率的な業務体系の構築、SNSを利用した連絡等が図られたので今後は確実に活用していきたい。